

## 平成25年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

### 【全般】

問題作成にあたっては、中学校学習指導要領に沿い、中学校の日頃の学習で積み上げられた基礎学力を計るものであるとともに、単なる知識だけではなく、思考力・判断力・表現力等を問うものとなるよう配慮した。

学力検査の平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は271.6点で、昨年度に比べて11.1点上がった。

平均点が下がった教科は社会（-1.4点）、英語（-8.9点）であり、上がった教科は、国語（+14.4点）、数学（+5.5点）、理科（+1.6点）である。

### 【国語】

平均点上昇の要因として、昨年度と比べて問題文が短かったこと、第二問題（説明的な文章）及び第三問題（文学的な文章）が中学生にも共感できる内容で取り組み易かったことなどが考えられる。第二問題と第三問題（古文）で出題した、全体の構成を問う問題では理解の差がみられた。今後も、文章の構成や展開を意識して読んだり、条件を踏まえ読み手を想定して表現したりする学習が望まれる。

### 【社会】

資料から有用な情報を適切に選択する技能は概ね身につけている。しかし、基礎的・基本的な知識の定着については、地理的分野は十分だったものの、歴史的分野や公民的分野は十分とは言い難かった。また、社会的事象の意味や意義などを、多面的・多角的に考察し、記述する力についても課題が残った。今後も基礎的・基本的な知識の確実な定着に努めるとともに、思考力・判断力・表現力を育むために、言語活動の充実が望まれる。

### 【数学】

数と式の計算、場合の数と確率、図形に関する定理などの基礎的・基本的な技能に関しては概ね定着しており、学習の成果がうかがえる。一方で用語の定義・意味の理解については曖昧な部分も見られる。問題文の情報を整理し解決の方針を立てる力や、具体的な事象から一般化する力、論理的に考え記述する力の育成が望まれる。

### 【理科】

全般的に基礎的・基本的な知識・技能の事項については正しく理解されており、正答率が高かったが、地学領域は課題が残る。また、複雑な計算問題や記述により答える問題に苦手意識をもつ傾向が見られる。

様々な自然科学事象に対し目的意識をもって主体的に観察・実験を行い、その結果得られる情報を数値として処理する力、論理的な記述や作図等によって表現する力の育成が望まれる。

### 【英語】

放送による英語の聞き取り問題や、英文と資料から情報を読みとる問題の正答率は高いが、英語を聞いて考え、答えを英語で書くような、複数の技能を統合した問題の正答率が低かった。英文を読む問題では、筆者の意図、主張や話の要点を的確に読み取る力が不足している。また、身につけた知識を活用して、場面に応じた英語で表現する力、自分の意見や考えを英語で表現する力が十分ではない。聞いたり読んだりしたことを、話したり書いたりする活動につなげるなど、4技能の統合的な言語活動の充実が望まれる。